

令和5年度「川崎区地域デザイン会議」開催結果

1 日時

令和5年9月5日（火）13時30分～16時30分

2 場所

カルッツかわさき大会議室

3 テーマ

「好きなことや楽しいことで、友人や仲間をつくっていける地域づくり」に向けて

4 出席者

・地域団体 15団体18名

川崎区ソーシャルデザインセンターモデル事業運営団体、いきいきかわさき区提案事業実施団体、町内会、ボランティアグループ、地域の縁側実施団体、公園愛護会

・区役所、市役所職員（区長、副区長、ファシリテーター、事務局） 12名

5 内容

(1) 区長挨拶（開会）

(2) 出席者自己紹介

(3) 地域デザイン会議の概要及び今回のテーマについて

(4) 川崎市のコミュニティ施策や区内の地域活動等について

・川崎市のコミュニティ施策について

・区内のさまざまな地域活動について

・川崎区ソーシャルデザインセンターの本格実施に向けて

(5) グループワーク（別紙）

①「あなたが地域活動をはじめたきっかけは、どんなことですか？」

②「活動を継続していくために工夫していることや、あったらよいなという支援などはありますか？」

(6) 区長挨拶（閉会）

【会議の様子】



テーマ①「あなたが地域活動をはじめたきっかけは、どんなことですか？」

【出された意見】

○グループ1

- ・小学校の先生をしている友人から、子どもたちの様子（ゲームで夜更かしをして学校で寝るなど）を聞いて、子どもに関わる地域の活動に参加するようになった。そこから町内会の様々なことにも関わるようになっていった。
- ・子どもの学校の役員を引き受けたことがきっかけで、地域の様々な人とつながり、町内会の役員などを任されるようになっていった。
- ・大学の先生が始めた子どもに関わるNPOの手伝いをしたことがきっかけで、自分でもやってみたいと思うようになった。ボランティアや自分で企画することが楽しくなっていた。
- ・知り合いのいない土地に引っ越してきて、子育てをしている中で、地域の人たちに助けもらったことがうれしく、それを次の世代に還元していきたいと思った。

○グループ2

- ・もともと合気道をやっていて、子どもたちに正しい姿勢を伝えるNPOを立ち上げた時期に、公園管理の団体が高齢化となり、やらないかと声を掛けられた。人集めと組織作りに苦労した（メンバーが学生のため、受験や就活などの忙しさの波がある）。
- ・海外移住を考えていたが、コロナが流行し断念。日本にいるなら地域の良さを伝えることをしたいと考えていた時に、友人から大師で面白いことをやっているからと誘われた
- ・もともとその地域の人間でないと地域に受け入れられるまでが大変だった。新しく始めるときに、誰かが地域とつないでくれると、地域活動を始めるといっきっかけになると思う。
- ・高校のボランティア部の仲間と、卒業しても会える場が欲しいと思い、ボランティア部の延長として始めた。
- ・高校のボランティア部の先輩から誘われた。

○グループ3

- ・地域の交通安全の活動やお祭りに参加したことがきっかけで、町内会の活動に参加するようになり、公園の清掃活動にも参加するようになった。
- ・仕事を退職し、町内会に協力して欲しいと頼まれ、公園の清掃活動などに参加した。
- ・小さなころから地域の方にあいさつが大事であることなど、色々なことを教わり、お世話になっていた。
- ・東日本大震災の時に臨港消防署の救援活動をダンスで表現したことがきっかけで、地域活動を本格的に始めた。

○グループ4

- ・25年前に、空き家となる親族の家を高齢者や障害者などの人たちの居場所として活用するようになった。

- ・いろいろな世代の人が繋がる、出会いの場、再会の場として、数人で始めた。
- ・もともと地域活動をしていたが、地域の縁側を始めたのは、区役所の人から、夜間に行なう地域の縁側をやってみないかと誘われたことがきっかけ。以前喫茶店だったところを借りてやっている。

○まとめ（企画課長）

- ・皆さんそれぞれに、地域を何とかしたいという思いがあり、それを実現するための声かけや場の提供が重要だと感じた。
- ・このことはソーシャルデザインセンターを行っていくうえで、ヒントになると思う。

テーマ②「活動を継続していくために工夫していることや、あったらよいなという支援などはありますか？」

【出された意見】

○グループ1

（工夫していること）

- ・活動を始めるときにしっかりと組織作りが大切。代表の人がすべてをやるのではなく、役割分担をしてみんなで取り組むことで、継続していける。代表に負担をかけすぎないように。
- ・定期的にイベントを実施したり、スタッフの意見を取り入れながら企画していくことで、スタッフのモチベーションを高めることにつながる。
- ・継続することが大事。毎週取り組みを行っている。初めのうちは電話で町内の人たちを誘っていたが、今は自然と集まるようになり、他の町内会の人にも来るようになっている。

（あったらよいなという支援）

- ・町内会補助金をもっと使いやすくして欲しい。（手続きや書類をわかりやすく）
- ・公園を活用したイベントを実施して、つながりの場を作って欲しい。町内会以外の人たちとのつながりも作りたい。
- ・若い人とのつながりが少ないので、HP や SNS 等の作成支援が欲しい。
- ・よい活動なのに継続するための資金やスタッフ不足で辞めていく団体を多く見てきたので、団体が自立するための支援が必要。

○グループ2

（工夫していること）

- ・地域活動は敷居が高いので、はじめの一步、きっかけづくりが大事。
- ・若い人たちに全面に出してもらい、年長者は根回しや裏方の役割に。
- ・世代を超えて知識などを伝えあえるとよい。若い人たちは高齢者の人たちに LINE 教室など。大人は若者に経験や知識、人脈を。
- ・クラウドファンディングを行ったがうまくいかなかった。だが、地域の人たちに活動を知ってもらえる機会にはなった。

- ・有償のボランティアに対する目を変えていきたい。
- ・活動の継続には「楽しさ」が必要だが、活動を継続しているとだれてくることもある。新しいつながりや新しいメンバーが入ってくことで刺激になる。

(あったらよいなという支援)

- ・身銭を切る部分があるから、団体で稼げる仕組みができればよい。自走するためには経営も学ぶ必要があるから、学ぶ機会を提供して欲しい。

○グループ3

(工夫していること)

- ・町内会の活動で若い人たちにも声を掛けている。どんどん活動を広げていきたい。
- ・ターゲットを絞らず、いろいろなコンテンツを混ぜ込んだイベントを企画して、子どもからお年寄りまで参加できるイベントを行う。外国人も楽しめるように様々なジャンル・コンテンツを提供。
- ・人とのつながりを大切にする。つながることで新しいアイデアが生まれて、活動が継続して行く。
- ・ギブアンドテイクの考え方も大切。例えば、こどもが活動に参加したらお菓子をあげるなど。
- ・ポスターなどは文字を小さくし、絵などをたくさん使ってわかりやすくしている。
- ・いろいろな活動を知って、吸収する。
- ・商売はお金だけど、地域活動は根でつながっている。つながりが大切。活動をやっていくほど、つながりが広がっていく。

(あったらよいなという支援)

- ・モノの支援
- ・町会同士のつながりづくりのきっかけを作って欲しい。
- ・各団体が情報の共有ができる仕組みづくり。

○グループ4

(工夫していること)

- ・行政のシステムに基いて取り組んでいる。
- ・活動を知ってもらうためにイベントを実施している。
- ・若い世代にも知ってもらうために、SNSを活用。
- ・スタッフと参加者の区別がなく、参加者たちも運営を手伝ってくれる。できることをそれぞれがやっている。

(あったらよいなという支援)

- ・縦割りではない行政のサポート。
- ・他の団体の情報が入ってこないから、いろいろな活動を知りたい。団体間につながりができるとよい。
- ・場所を借りるための賃料が課題。助成制度やお金のかからない活動場所の情報がある

るとよい。

- ・助成金をもらうための手続きが大変。助成金申請の講座を開いてほしい。

○まとめ（企画課長）

- ・活動を継続していく中で必要なこととして、どのグループもお金の話は出ていたと思う。申請は難しいことも多いので、事務手続きを簡略化できるように、制度を作る際には考えて行かないといけないと思う。
- ・ギブアンドテイクの話も出ていたが、人に何かをしてあげれば、相手も何かを返さなければと考える。自分から積極的に投げかけていくことで、つながりが広がっていく。
- ・チラシを印刷するための印刷機は市民活動コーナーで提供しているが、SNS等の支援がなかなかできていないと感じた。これからはそういった支援も必要だと思う。
- ・今回頂いた意見を今後のソーシャルデザインセンターの取り組みに取り入れていきたいと思う。